資料 2-3

# 2－3 流域委員会の情報公開について

本準備会議では、流域委員会の情報の公開について、以下の点を審議します。

## １．委員会の公開

### １）一般傍聴者の受け入れ

一般傍聴者の受け入れは、すべての希望者が傍聴できるよう可能な限り配慮することを基本とし、原則として入場制限を行わないこととする。

### ２）一般傍聴者の申し込みの受け付け

傍聴を希望する方は事前に申し込むことを基本とし、委員会当日に、会場にて受け付けることも可とする。

### ３）会場の場所

○国土交通省管理区間に隣接する市
加古川市、高砂市、小野市、加東市、西脇市

流域市町での開催について加古川本川、国土交通省管理区間に隣接する市での開催とする。

### ４）会議の開催案内

・記者発表を通じて案内。
・ホームページ（近畿地方整備局、姫路河川国道事務所　流域委員会）で案内。
・市町村を通じてポスターやチラシで案内。

## ２．審議結果等の情報公開

### １）議事録の公表

議事録は、概要について記者発表とホームページ上で公表する。また、議事録の詳録は閲覧可能とする。

なお、議事録の公表にあたっては、庶務が出席委員の確認を得たものとする。

概要版

## 第 24 回　揖保川流域委員会　議事録（概要）

■日　時：平成 20 年 1 月 29 日（火）13:00～16:00
■場　所：たつの市青少年館　ホール
■出席者：委員 13 名（○○委員、○○委員、○○委員、○○委員、○○委員、○○委員）
　　国土交通省 19 名、自治体関係者 11 名、一般傍聴者 29 名（計 72 名）

**1. 今回の議題について**

| |
|---|
| 議題　・揖保川河川整備計画段階における環境影響等分析報告書(案)について |

**2. 環境影響等分析計画書(案)について**

**【説明概要】**

前回の第 23 回委員会での意見を踏まえ、河川管理者より「揖保川河川整備計画段階における環境影響等分析報告書(案)」の説明が行われました。

**【意見および質疑応答】**

**1. 環境要素の分析結果について**

委員からの主な意見は以下のとおりです。

○環境整備の具体的方策について、「魚道の改築による連続性の確保」とありますが、魚道が設置されていない堰が多いのに、上下流の連続性は確保できるのですか。

**→河川管理者からの回答**

**魚道の改築を提案していますが、現時点では改築の対象の堰、改築の方法はまだ具体的には示していません。次回、魚類の生活史、生態を踏まえた魚道改築の検討方法、魚道がない堰については設置の必要性の検討も含めご提案します。**

○丸石河原の再生は可能なのか疑問です。

**→河川管理者からの回答**

**丸石河原は数年に一度の定期的な攪乱により維持されてきましたが、土砂の堆積により消失している部分があります。そこで、増水時に水が勢いよく流れるような河床掘削の方法を検討し、揖保川で試みたいと考えています。**

○（揖保川 15k～27k 区間の丸石河原の変遷の写真を見ながら）写真で見ると、平成 11 年に河原が急激に減少し植生が増加していますが、丸石河原の再生にあたってこの現象の原因を究明する必要があると思います。

**→河川管理者からの回答**

**仮説ですが、昭和 22 年より全国の河川で川底が深くなったため、河川敷の攪乱が減り、土砂堆積、樹林化が進行したのではないかと思います。**

○（揖保川 15k～27k 区間の丸石河原の変遷の写真を見ながら）丸石河原が減少していると示している左岸側の礫河原は、堰直下にできた砂州です。注目すべきはこの砂州ではなくて、平成 11 年まで河原として残っている右岸側の礫河原です。

○丸石河原が減少した原因のひとつに、全国的に 1960 年代の宅地開発の進行により、土砂が河川に流入し、堆積したと思います。

○希少種、重要群落について、３つの視点があります。一つめはメダカのような場を整えることで容易に再生できる種、二つめは特殊な環境に生育・生息するため、環境そのも



【参考】
詳録版

**【藤田委員長】**　多分、浅見委員のご発言と関連すると思うんですね。ほんとうにダメージを受けて元
く回復しないのか、あるいは少し、今、河川管理者がおっしゃったように、何らかの形で、治水のため
工事はしたけれども、それにプラスアルファの何かをすれば回復する。それは、やっぱり回復するという
ふうに考えるべきなのかという、多分そのあたりの、これは非常に考え方も難しいと思うんですね。
　だけど、今回は特に幾つかの案を比較しようということですから、ある程度頭の中で回復をご自分な
に、例えば５年なんだとか１０年なんだとかいうのを思い浮かべながら評価して、その中で一番、次に持
っていける案に収れんしていくという、そういうことではないかというふうに思います。
　そのほか、何かございますでしょうか。どうぞ。

**【中農委員】**　今の話のほう、私も見ていても「影響は小さい」が多過ぎるんですね。だから、比較の
しようがないんです。さっき言われたところもそうですけど、例えば２１ページのところも、オギ群集の
ことについても、Ｂ・Ｃ案についても影響は少ないになっていますし、上のＯ案についても影響は小さい
になっているし、下の文章を見れば、それはそうかとわかるんですけど。ですから、表現はやっぱりちょ
っと工夫されたほうがいいんじゃないかと思うんです。影響は、当初はあるけどもというような、あるけ
ども将来回復するとか、その程度はやっぱり書かないと、すべて影響は小さかったら比較できないですよ
ね。

**【藤田委員長】**　多分、細かいところではそういうふうな表現はされているんでしょう、この小さい。
　どうぞ。

**【宮武事務所長】**　すみません。わずかな差はありますが、その表、使用上の注意を誤りますと副作用
がありまして、ちょっとだけ申し上げますと、これは比較するものではないんです。考えられる案という
のが１９個、並んでいましたでしょう？　これはあほかというやつは、８つ、削り落としました。残った
やつは、ある程度現実味のあるやつ。だけど、ぱっと見、そうなんですけど、ほんとうに現実、現場でや
ったときに影響がないんだろうかということで、一個一個、事前に大まかに、大きな問題がないか、ある
いは大きな宝物はないかとチェックしていた。
　ですから、影響が小さいというものは、比較しづらいというんじゃなくて、これはあまり関係ない項目
なのかなと思っていただく。ただし、なおざりにするつもりはありません。この案の中から、あるいはこ
の案の組み合わせで、次回、地元の方々、来週末にずっと回っていきますけど、そこでいろんな要望とか、
いろんな思いが聞けると思います。それをうまくクリアできる案というものを、次回、それを踏まえて提
案したいと思います。
　これは本気の案になりますので、考えられる案とか複数の案とかじゃありません。これでいきたいとい
う案になりますから、これは影響が小さい、小さいはどの程度、これは何とかなるのという議論に今度は
入ってきます。すなわち、この表の見方は、そういう意味で見ていただかないとちょっと副作用が出てき
ますので、ご注意いただきます。

**【藤田委員長】**　ありがとうございました。
　いかがですか。どうぞ。

**【田中丸委員】**　先ほどから議論になっている箇所ですけれども、多分、表現の仕方を統一するという
意味で、括弧つきの影響は小さいとして、将来的には回復する可能性が高いというパターンが多用されて
いるんだと思うんですけれども、先ほどから議論があったように、例えば同じ回復するにしたって、二、
三年で回復するのと回復に３０年かかる、５０年かかるというのを同じようにとらえると非常に難しくて、
例えば将来的には回復可能性があるが、その回復には５０年かかるというものをもって影響は小さいとい
う表現は非常に難しいと思うんです。とすると、やはりこのスライドを第三者が客観的に見たときに非常
に解釈が難しいので、ここまで表現のパターンを統一化するのはちょっと難しいんじゃないかと私は思い
ました。

**【藤田委員長】**　ありがとうございました。
　今回はこのスライドで、我々、説明を聞いたということですので、今後、住民の側に持っていって説明
をし、そして、またパブリックコメントということで意見を伺われるということですから、我々の委員会
としては、そこに持っていかれるときには少し表現の工夫をされたらいかがですかというご意見で一応と
めておきましょう。

**２）委員会の議事に対する意見の扱い**

**常時、FAX メール等により意見を受け、庶務がとりまとめの上、報告する。**